

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和4年度の取組みについて

村上 桐生（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）
齋藤 佑介（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）

トムラウシ南沼野営指定地（以下、「南沼野営指定地」）は、大雪山国立公園特別保護地区内に位置し、多くの高山植物が一面に咲き乱れる美しい景観が広がる一方で、長年にわたって深刻なトイレ問題を抱え、登山者から「日本一汚い幕営地」と揶揄されてしまうほどの状況であった。

本問題について、「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」（以下、「南沼プロジェクト」）と称する取組みが、平成29年4月に開始された。以来、南沼プロジェクトでは、関係行政機関や山岳関係団体等が協働し、南沼野営指定地の環境改善や携帯トイレ普及などの各種取組を推進している。本稿では、令和4年度における南沼プロジェクトの主な取組みについて紹介する。

南沼プロジェクトの立ち上げや、令和3年度までの取組みについては、昨年度（第23回）フォーラム寄稿を参照いただきたい。

【1. 携帯トイレ配布ボックスの継続設置】

令和4年度も、令和3年度に引き続き、トムラウシ短縮登山口（以下、「短縮登山口」）に無人の携帯トイレ配布ボックスを設置し、携帯トイレ持参を忘れた方や、南沼野営指定地にトイレがないことを知らなかった方でも、協力金（携帯トイレ1個当たり500円）を支払うことで、携帯トイレを入手できる取組みを試行した。協力金は、定期的に大雪山国立公園連絡協議会事務局で回収し、携帯トイレ補充の原資とした。なお、令和5年度シーズン以降は、南沼プロジェクト事務局において協力金を回収する予定である。

今後、協力金の額が増えてくれば、携帯トイレ補充以外にも、登山道の補修や維持管理にも活用したいところである。しかし、これまでの2カ年の取組では、1個当たりの協力金は396～398円と、携帯トイレ補充で手一杯の金額であり、目標とする500円にはなお及ばない状況にある。関係者の尽力により、かろうじて継続できているものの、今後の安定した取組みに向けては、500円の協力金投入について更なる普及啓発が必要である。

令和4年度の配布実績の詳細については次頁のとおり。

トムラウシ短縮登山口 携帯トイレ配布ボックス 協力金回収実績（確定値）

設置期間：令和4年6月9日午前9時～令和4年10月11日正午

確認日	配布個数（個）	回収金額（円）	協力金／個（円）
6月28日	8	580	73
7月6日	5	1,900	380
7月19日	29	8,500	293
7月25日	5	3,600	720
9月14日	55	30,230	550
9月27日	26	5,250	202
10月11日	10	4,600	460
計	138	54,660	396

（参考：令和3年度の協力金／個は、約398円）

参考 携帯トイレ回収数（単位：個）

	6月	7月	8月	9月	合計
短縮登山口	-	186	86	300	572
温泉登山口	-	33	124	137	294

866個

登山口に設置した携帯トイレ回収ボックスにおける回収数が令和3年度（1,433個）より減っているが、これは、令和4年8月の大雨で短縮登山口への林道が一時通行止めとなっていたことから、短縮登山口の回収ボックスに投入する者が減ったことが原因と想定される。

なお、令和3年度は、短縮登山口の回収ボックスがピーク時に溢れかえるほどであったが、令和4年度は、連休後速やかに回収するなど工夫した結果、当該回収ボックスが溢れかえることはなく、大きな混乱はなかった。

【2. テント型仮設携帯トイレブースの試行設置】

令和3年度に短縮登山口で実施したアンケート調査の結果、登山者から「南沼に行く途中に携帯トイレブースが欲しい」との声が聞かれたことを受け、登山中の野外排泄防止に向けた検討を行った。

その結果、関係者との現地確認や調整等も踏まえ、短縮登山口から南沼野営指定地までのほぼ中間地点にあたるカムイサンケナイ川沿いに、令和4年8月25日から9月27日までの期間、テント型の仮設携帯トイレブース（以下、「ブース」）を試行設置した。

ブース内には、携帯トイレ用の便座とともに、携帯トイレ使用方法や回収ボックス設置箇所を示した説明書（多言語表記）、また、手動カウンターも設置した。結果的に、手動カウンターの数値は9のみであったが、登山者にはかなり認識されている様子であった。

設置箇所及び設置状況については次頁のとおり。

(ブース設置箇所)



(設置状況)



撤去後、テントや地面への損傷・汚損等は見られなかった。なお、令和5年度以降については、令和4年度と同様の箇所での継続設置に向け、関係者と協議していく予定である。

【3. 野外し尿痕跡調査】

南沼プロジェクトでは、平成28年度以降、南沼野営指定地におけるトイレ問題の改善状況を把握するため、野外に放置されたティッシュ・大便を回収し、それらの数と位置を記録する調査を継続実施している。

令和4年度も過年度同様に調査した結果、野外し尿の痕跡（以下、「痕跡」）が確認されたのは、シーズンはじめ（6月28日）と終わり（9月28日）の2回の調査を合わせても、計4個にとどまった。南沼プロジェクト開始当初と比べ減少傾向にあった近年の数値と比較しても、大幅な減少となった。

なお、令和4年6月～9月の南沼野営指定地におけるテント数は、定点カメラによる調査の結果、ほぼコロナ前の水準（計400張前後）まで戻ってきていることが確認されている。このため、痕跡数の大幅減少は、野営地利用者数の減少によるものではなく、野外し尿をする者が減った結果であると考えられる。

（参考：過年度に確認された痕跡数）

年度	日付・回収数									計
H28	7/2(土)			7/26(火)					10/1(土)	49以上
	不明 (全数回収)			30					19	
H29	6/28(水)	7/15(土)		7/26(水)	7/30(日)		8/14(月)	9/16(土)		43
	6	2		6	5		17	7		
H30	6/25(月)		7/24(火)	7/25(水)	7/28(土)	8/6(月)	8/12(日)	9/16(日)		38
	1		13	2	1	5	6	10		
R01	7/4(木)		7/23(火)				8/12(月)	9/14(土)		13
	0		0				6	7		
R02		7/16(木)						9/16(水)		14
		5						9		
R03	7/1(木)	7/28(水)	8/9(月)	9/2(木)						16
	6	4	3	3						

また、痕跡数の減少とあわせて、すべてのトイレ道で植生回復が見られている。定量的な調査は実施していないものの、植生の回復状況からみて、テント場や登山道から遠いトイレ場は長らく使われていないとみられ、特に植生回復が著しかった。

近年痕跡が確認されていないトイレ場では、調査目的であっても踏み入ることが躊躇されるほどトイレ道の植生が回復していることから、令和5年度以降は、ドローンを活用した痕跡の遠隔調査や、植生回復状況の把握を目的とした定点撮影等も試みたいと考えている。